

**「IT＝理系の男性」という先入観を疑う。
男女の区別ではなく、その方の個性を重視。**



1985年に設立。

101名の社員とともに、IT企業としてデジタル技術で、これからの社会や経済の変革を支え、さらに進化させていくことをミッションに掲げる。社員の個性や価値観を、新しいサービスの価値創造へとつなげて、いま注目を集める。

「IT＝理系の男性」というイメージがありますが、実際はどうなのでしょう？



インタビューー



中田さん

じつは当社では女性管理職も多く、もともと男女や文系、理系関係なく、何よりその方の個性や資質を重視して採用したり評価しているんですよ。また、仕事をする上で、社員のライフイベントに合わせた自由な時間をつくることのできる制度も整えてきました。



坂田さん

例えば、フレックスタイムで出勤時間を遅くしたり、早めに仕事を切り上げてイベントに出かけてもいいですし。業務をきちんとこなして責任を果たしていれば、性別を問わず自由度が高い職場なんです。

新しい評価制度や働く時間についての施策などは、経営者同士が思い込みがないようにつねに話し合い、社員にもいろいろと意見を聞きながら進めています。

文系、理系で分けた採用や人員配置ではないんですね。



インタビューー



坂田さん

もちろんです。
IT業界で働いてみると文系、理系はあまり関係なく、人としての柔軟性やコミュニケーション力が重要で、じつは文系の人が活躍できる要素が多いんです。

私は文系出身で、就活していた当時、IT企業は理系でないと難しいと言われたことも結構ありました。でも、入社後は第一線の技術者になり、社内のマネージャーたちもほぼ文系です。海外出張でさまざまな現地企業を見てきた経験などからも、男女や文理関係なくその人の資質を重視しています。それが、女性が活躍できる環境づくりにつながっているのだと思います。

服装もみなさん自由で、明るい雰囲気がありますね。



インタビューー



坂田さん

私はアメリカのシリコンバレーの世界的なIT企業や大学を、中田は中国のユニコーン企業をいろいろ見てきたのですが、そこで仕事をしている人の姿が輝いて見えました。日本に帰って東京に着いた瞬間に愕然としたというか。向こうでは自分でこの仕事を選んでやっているんだという熱量をもち、仕事を楽しんでいる。情性感がないと言いますか。それに、カジュアルな服装の方が肩の疲労感もだいぶ違います。

まず、私たち経営者からその姿勢を示していこうと。おしゃれをして自分を自由に表現することは、お客さまの前で不快にならない程度であれば生産性も上がり、いいコミュニケーションにつながると思うんです。



カジュアルな服装での執務室風景

個性が新しいサービスや企業の価値を生み出すということなんですね。



インタビューー



中田さん

まさにそうです。最近は社内でも個性豊かな人間が増えてきて面白い集団になってきました。

例えば絵を描いている人、DJをしている人、YouTubeにもすごく詳しい人、キャラクターデザインをしている人などがいて、これからも一芸を持っている人を採用したい。

今後、当社では、ITを活かした新規事業を進めていきたいと考えています。ですから、文系、理系も男女も関係なく、何かにとことん打ち込める人、本気で生きている人を採用したい。さまざまな個性の掛け合わせで、ITプラスアルファの付加価値で成長していきたいですね。



文系・理系問わず活躍できるための新入社員研修

自分の中の思い込みに気づくためには、いろんな価値観に触れることが大切かも！？



アルカモ

その他の取組み・企業情報はホームページをご覧ください。

